

南極の「氷」から学びを広げる

本日の給食時に麦茶とともに提供される・・・南極の「氷」についてレポートします。
昨日、砕氷艦「しらせ」の波江野艦長からも丁寧に説明をいただきましたが補足情報になります。
この機会に南極について調べてみましょう！

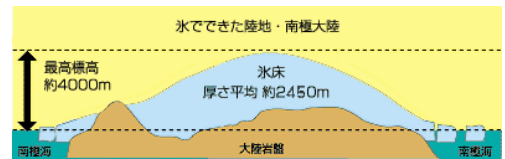
環境省「南極リンク集」 <https://www.env.go.jp/nature/nankyoku/kankyohogo/link.html>

「南極の氷」

環境省「なんきょくキッズ」

https://www.env.go.jp/nature/nankyoku/kankyohogo/nankyoku_kids/donatakoro/donatakoro/index.html

南極は氷の大陸と呼ばれています。南極の氷の下には南極大陸という陸地があります。陸地の上にある厚い氷を氷床（ひょうしょう）といいます。その氷の厚さはいちばん厚いところでは、4,000mもあります。富士山の高さが、3,776mですから富士山よりも厚い氷が南極にあるというわけです。



南極の大きさは約1,300万平方Km。これは、日本の大きさの36倍です。オーストラリア大陸よりも大きいのです。この広い場所に平均約2,500mの厚さの氷があります。地球にある氷のほとんどが南極にあるのです。

「アイスオペレーション」

国立極地研究所「昭和基地 NOW!!」

<https://www.nipr.ac.jp/jare-backnumber/now/back59/20181107.html>

観測隊では、国内の広報活動用に氷を採取する通称「アイスオペレーション」という作業を毎年おこなっています。昭和基地の北方にある海氷上へ行き、下見をしておいた氷山の氷をとってきました。氷山の氷は南極大陸に降った雪が固まってできたものであり、固まる過程で過去の大気が詰まります。

作業は、つるはしで氷山を砕くグループ、氷を段ボールに詰め込むグループ、段ボールの重さを量るグループに分かれて作業をしました。つるはしで思うように氷を砕けなかったり、氷が重く運ぶのに苦労したりしましたが、全員で力をあわせて目標の数をとることができました。とってきた氷は、国内の教育現場や様々なイベントで、触ることのできる南極の氷として利用されます。

「アイスオペレーション」終了後には、氷山の斜面を利用した観測隊恒例の「そうめん流し」をおこないました。流した水やそうめんが掘った溝の途中で凍ってしまうなど、国内とは一味違った「流しそうめん」となりました。



つるはしで氷を削る作業

そうめん流しの様子

氷山から見た風景

給食で麦茶とともに！



給食では本日のために
透明なプラスチックカップを用意しました

耳をすますと「プチプチ」
むかし むかしに 閉じ込められた
大気がとけだす・・・
体感できます

○ 土曜授業日公開します

7月9日（土）学校公開（授業参観）実施します。

感染者の状況が増加傾向にあるようですが・・・保護者限定・マスク・手指消毒の徹底・私語厳禁（体調に不安のある方は参観しない）という方法で実施します。教室の入室も可能としますが・・・混み合っている場合は廊下からの参観として、交代して教室での参観をお願いいたします。